光

第二十八輯

大正十三年一月

○再び三重塀について……西田天香
○天威に對する吾人の態度……小此木混沌
○復興改建の精神的基礎……中桐確太郎
○背後に立てる者あり……松下吉衞
○冬は迫る……河村清太郎

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

○張ぼてに溢はき……天香
○みなさまにおわびして……住田蓮車
○大正震災の歌……福原俊丸
○鹿ケ谷一燈園日記……高頭生
○神戸光の友會……見如生

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謹告

一、前號に掲げました光友會は、東京震災に多數の同人が奉仕させてもらうてをりますのと、印刷其他の準備の都合で、來春に延びました。

二、光の友會はぼつ〳〵地方々々で出來かけて居ります、たとへ三人でも五人でも眞劒に語りあひ又聯絡しあうてゆかうとして下さる方は、御一報次第に其御近所にある因緣の方々の人名をおしらせ致します。どうかあつまつて見て下さい。始め小さく出來ても處々にあることが知れますと、すぐにおつれがふえてきます、光の友會の欄で段々におしらせします。

三、前に園に托鉢して下さつたお方で此際震災地で同人となつて托鉢して見たいといふ願のある方は宣光社へおしらせ下さい、都合を御返事いたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

再ひ三重の願について

西田天香

前號に『轉禍爲福』の三重願をたてさせてもらうたことについて書きましたが、其内容をもう少し詳しく述べさせてもらひます。

個人として、國民として、人類としてと三つにわけて『完成』などゝ極めて抽象的な漠然とした文字を置きまして、第一には生死を超へるやうに、第二には臥薪嘗膽するやうに、第三には怨みあひをせぬやうに、とだけ、つけ加へておきました。

考へれば考へるほど、柄にもない大きな願でありますが、たとへ一足でもかうした願にひつたてられて、己れの懈怠をいましめたい心のするのは正直な事實であるのです。からして此三つの願に詮じつまつた私の心のありのまゝを述べさせてもらうのです。

第一、個人としては、はやく生死を超へるやうに、と願ひますのは、私しが御殿場近くで地震に會ひまして八時間立往生をしている間に、小山あたりの慘死の狀報を耳にし、又二三日經つて横濱東京の大慘死地獄のことを聞きました時に、ある程度までは避けられても、あとは到底免れ得られぬことゝ思ひました。又日本は本來地震國でありまして、或る西洋人などが氣の毒ではあるが、日本はつゐには地震で滅びる國だとか云ふたきも聞きますときは、こんな極端な未來の事まで心配せいでもよいと思ふ下から、たとへ今すぐに大地が二つに裂けて、日本が全部陷落するとしても少しも驚かぬほどの體度を持つて居らねばならぬと考へました。それからそれへと此公案を練つてゆきまして、はやく生死を超へるやうにと祈りたくなつたのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

折角私等は一人前の人間と生れてきた。そうして何處よりとも知らずに出てくるおひかりを受けて、徹底した勝利者になりたい願を持つています。手近い小さいなやみにかれこれ悶へて居るときもありましようがどんな大きた天變地妖にも、まごつかぬ用意が必要だと思ひました。何日、何事が起つてくるかも知れぬといふ事に瞳着しないだけの心掛を持つていて、眼前の種々の問題を扱つたら、如何に愉快であり、又恐らくは理想的に最善の體度を實行することが出來やうとおもひます。からしてどうでもこの力を得たい。そうしてそれは『生死を超へる』それだとしたのです。

『生死を超へる』の語は佛教の言葉で、私がつかひなれたのでこれを用いましたが、『生きどうし』（神道）『復活』（キリスト教）、『悟道』（禪）、『安心決定』（淨土）など皆一つであります。つまり此肉身が死んだとて別に眞身があるといふ狀態で、大地が割れて日本が全部陷落しても、カラカラと笑ひながら、眞身に歸ることの出來る狀態であるのです。皆樣はこんな事はよく御承知で、あらためて説明の必要はないのでありますが、知つてもツイほつておいて其消息を手に入れやうとは私共もせないがちであるのです。こんな未會有の鞭を受けたのを機會に、一所にはげみあひ、大接心をしたいといふのです。昔しのお僧に、火に燒かれる山門の上に、お弟子と共に坐禪をして、必らずしも山水の地を選ばいでもよい、心頭を滅却したら此猛火のうちでも涼しゐといつて燒かれ死にした人のあることもみな御承知である。こうした心の幾分でも持つことが出來たならば、東京横濱の大震火のうちでももつとあわてずに死ねまた死なずに落ち延びられたかも知れぬ。生死を超へていないものは、活き殘つたものも、死んでいつたものも失敗であつた。たつた大地が四寸ゆつたゞけで、この樣な大さわぎになる。自然の力は大きなものなり。されど生死を超へ得たならば此自然と自分とは一つとなつて少しもまけはせぬのであります。たとへ日本が地震國として遂に亡びるやうな事がないとしても、明日をも知らぬなま身を持つてゐる。無常迅速は昔も今も同じこと、何とか眞劍にはやく生死を超へたいものであるとおもひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

第二、國民としては勇しく且たのしく臥薪嘗膽をして失はれた大きな損害を可成早くとり返し、更らにもつとよひ方法で福田を增したいとおもふのであります。

普通に勤勉と節約などゝ申しますが、それは只口にいふていますが、何程のことも出來るものではないのです。百圓の收入ある社員さんの家庭を六拾圓にするといふ、中々行はれるものでない。行はれでも隨分みじめな又苦いものである。平常一割の所得のある工業を俄かに一割五分にしやうと思つたとて容易でない。人間生活の根本を自然の上に打ち立てることをせいでは、中々出來ることでない。それに何の幸ひが此度の震災に偶然とはいひながら多くの罹災者諸君は赤裸々な大自然に迄ひきむかれて、そこにほとんど原始生活を體驗されたのである。はだかのゆたかさを識られたのである。

腸胃を病んで靜養してゐた關西の大商人が、東京の大災を聞いてほつておけず、はね起きて帆船で焦土の帝都へかけつけ、大官のうちにとまり込んで、玄米の握りめしで數日をかけあるいたが、胃も腸も何ともない。大阪へ歸つてヤレ〳〵と思ふて友人の御馳走に四皿の洋食に舌鼓を打つてたべた晩から又胃が痛み出したとか「權利義務でエガミ合つていた人が避難した寺の廊下で同じ炊出しに手を出して仲よしになつたとか隅田川にザンブリつかつて一つの布團をかぶつて水をかけ〳〵火の子を防いでこれも一つの握飯を半分づゝわけた男女が出あひがしらに目出度く夫婦になつたとか。ヤレ大富豪の令孃がバケツで水もらひ勞働の實感にふれたとか、華族の夫人が雨にぬれながら避難して、病身に障りがないとか、腰のたゝぬ程の婦人が、鎌倉から東京まで無事に步いて歸つたとか、こんな話は山ほどある。人間本然の力、たましいの力、などがあり〳〵とかゞやいている。何程の聖者が何年說敎をしたとて、大臣が玄米の握飯で早出居殘りをされる迄なし得ましやう。大官及富豪の邸宅をあけ渡してまたはかひ〴〵しく避難者を世話されたなどは、萬卷の聖書を讀みこなしても出來ぬことである。殊に不思議なのは、その人達がそれが反つて人間の本然のあらわれであるを直覺して愉快であつたといふ事實そのものである。私は此動かす事の出來ぬ本然の事實、これをわ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

すれたくない、これを眞の幸福の基礎として打立てたい。食ひすぎて胃をいため、もちすぎて心をいため、飾りすぎてたましいをいため、塀を高くして愛心をいためなどした此何百年かの文明の根本のあやまちをはつきりと知りたい。地獄へ往く道を文化々々といふてきたことから眼をさましたい。天國は近きにありとか道は遠きにあらずとか、極樂は彈指のうちにありとかいふことのうそでないことを悟りたい。己れのものと執することより淋しいきもちになり、己れをのみ愛しやうとすることより、反つて己れがなやむことを知りぬきたひ。如此ことは、此大震災の禍を轉じて大幸福とする尤根據ある基礎であるからである。此基礎にたちて一切を復興し建設するならば、普通平凡な勤勉節約的のそれでなくて大大的復興が出來る。

御詔勅(此度の民風作興の)に、浮華放縱の習、輕佻過激の風を深く戒められ、今に及んで時弊を革めずんば或は前緒を失墜せんことを恐るとあります。これほどの國家の危機であるからは、思ひ切つた眞正の復興をしたいものである。未曾有の大災禍を轉じて、超歴史的の大復興として見たい。それには此大自然にふれた事實の上に基調を置いて、從前の誤れる文明のかびを再たび繰り返したくない。勇ましく且たのしく臥薪嘗膽したい。すれば失はれた何億位のものは容易にとりかへし得るのみならず、更らに大きな正しゐ福田をかち得るとおもふ。一燈園生活は二十年兎に角原始的に似た生活を維持してきたから、これを提唱するにはフサワシイ義務を感ずる次第であります。

第三の人類として怨みあひをせぬやうにとの願は、さらに私の痛切に感じたことであります。まづ鮮人問題に始まり、自警團と警察軍隊主義者救護團體の方々などのうちに、ゆきちがひの出來たそれに對しての願ひである。九月四日に小山から御殿場あたりを通りましても、赤襷竹鎗のいかめしき姿は眼につきました。東京に出てきますと、さしもに大袈裟に傳へられた鮮人の方々のことも、所謂大山鳴動して鼠一匹の樣なことであつて、其他の事實と合せ聞くと、何の爲めに一體さわいだのか夢の樣である。それがみな、親しゐ間の國民同志兄弟姉妹である。一方にうるわしい相敬互讓の事實のあるのに、何の魔のせいか、程の悲

慘なことが湧いたか。思ひ出すさへゾツトする。一體日本人の血のなかに、こうした殺伐な惡血がまだ澤山殘つてあるのか、一時の輕佻過激の風を突發するものか、私等には見當がつかぬ。國辱じやとまでいふ人もある、無理もない。好戰國民でないと力んでも自信がなくなる。ことに鮮人の方々には氣の毒である。

私は京都へ歸つた晩一燈園にゆき、まづ園に居らるゝ三人の鮮人の兄弟の安否にいゐて考へた。どんな感じをもつて呉れているかとおもふて、一人の鮮友は金孟鎭君他は許範君とその妹である。金さんがたしか園の表にいたことゝ記憶する。微笑して何のへだてもない大安心の體度と見た。許さんどうですときいた。難有いことでと答へた、何の爲めかときいたらば次ぎの答へをした。

此間托鉢先のある家にゆきました、許さんよくきなさつた、うちのみんながあなたの安否を氣づかつて心配していたといふて呉れられた、そのやうに私の事を思ふて呉れるのをうれしいとおもひます。云々

私はヤレ〳〵と安心した。

又ある道友からきいた話し、是は東京の某銀行の支配人の方であるそうだ、自警團として立番をせねばならぬことになつた。手に手に武器をもつて出るやうにとの命であるのを細きステツキ一本で出てゆかれた。すると他の人々から、武器を持ちなさいと强要されたを斷つて、僕等の友人は一燈園といふ生活をして居るたとへ他からきられかけてもこちらからは切りたくないからして、ステツキで澤山だといはれたときいた。

一燈園の生涯は意氣地のないことおびたゞしいかも知れぬ、けれどもこふしたやさしみは生活の上に自然にもつている。玆から見ると此度のいまわしき出來事は必らずしも日本人の本性ではないやうだ。うらみあひをせないですむ生活をだになさば、たとへ少々位流言蜚語があつたとしても、ヤレ刀劍竹鎗とさわぎもすまゐ。これは强いやうでまことに弱いおびへものの體度であるまいか。白隱禪師の法語のうちに、眞正の道人はその自性の明鏡をむねにかけたら、鎗の間を裸體でも通れるといふ樣な事が書いてあつた。竹鎗赤たすきはステツキにたんぜんよりは弱いのであるまいか。私等はもつとほんとに强くなりたい。かうしておびへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なければならぬやうな生活をしたくない。怨恨盡きるなし、いつまでたつてもはてしがない。如かず他から怨まれても此方から怨まないことだ、これで消し口が漸くとれる。怨みあわぬ生活をして、それを大小遠近に應用して、言語のはしにも、動作の上にも、生活の相の上にもひかりあらしめたい。此度の事は昨日今日の結果でない、遠い原因がある。今日是を應用したとて明日結果が見へはすまい。けれどもいつかは必らず功があらわれる。總立ちになつて禱りたい。怨みあわぬ生活をしたい。たとへどれほどの誤りの傳へられ、名譽をきづゝけられしても、みな己れの不德と詮じつめればよい。すべてはおひかりがしろしめす。人がいひわけしたとて何にならう、怨みをふやすだけのことだ。死をなげられても玉とうけよと法然上人はいわれた。誤り位で信じられぬなら信じてもらふ價値がないのだ。當然だ。たゞ自分は己れの信じぬを反省して、世の怨みの種を消しとめたい。之れを一切とともに祈り出して、人類の轉禍爲福の願としたい。是ならば世界も今困つている、早く世界にがゞやかせて、以て報恩の爲めに聊か貢献したいのである。

まだ〳〵詳敷書かせてもらいたいのでありますが、これで一先づ筆をとゞめます。

私の不德ものゝ柄ではないけれども、どうかみな様について禱らせてもらいたい。どうかよろしくたのみます。

―大正十二年十二月―

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天威に對する吾人の態度

小此木混沌

近頃の世相は物質上にも思想上にも、恰かも文化の絶頂に近づいたかの意氣込みであつた。財力と無遠慮さとに任せて種々の行爲言論が横行し、おまけに印刷の手輕なことや通信の迅速なことも一倍それ等の反響に力を添へて、大事業家、大智慧者、大經世家、大手腕家は到る處に隨分と活躍して居つた。所が大正十二年九月一日午近くに當つて、すてきな權威が天外から現はれて、今といふ今までの一切を破壞掃盪し盡して地上に殘された人類を啞然たらしめた。この威力の前には人類は始めからの本來零に還らしめられてしまつた。絶對の威力と人間のわざとは此うも違ふものか今更に大悟させられた。

此れでも懲りず悔い改めないならば、吾人は不斷に蹴飛ばされ永遠に呪はれる動物で、何といふ淺ましいものであらう。併しながら此の一見むごたらしい天地の災變は、此の浦安の國に甘樂の生を惠まれた大日本民族の爲めには極めて必要な……又如何ともすべからざる如實の環境と感謝せねばならぬ理由が有るやうに意ふ。

暫らく人事を外にして、吾人脚下の地構を省察し、又其地史を考慮すれば、この島國ほど太古以來所謂天災地變の多い、將た多かる可き性質を具へた國土は無いのである。此れは天然的に地形地質（陸上のみでなく海床の構造も）風土氣象の特殊の關係上、或は定期的（例へば二百十日のあらし）に或は不定期的（地震の如き）に或は突發的（火山爆發の如き）に發動する種々の威力である。科學的には何の不思議も無いのであるがうかと人事にかまけて、此等犯すべからざる自然の警誡を忘却し、本來甚だ際どい自然的環境に住する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ことを油斷するのみか、却つて此れに逆抗することをさへ敢てするが爲めに、今度のやうに何もかも根蔕から覆へされる破目に陷ゐるのである。けれども開闢以來如上の天變を不斷に反復された我日本民族は、之れが爲めに一種の特徴をその民性の上に鑄造されたことを忘れてはならぬ。即ち執着を脱してあきらめの良いこと、機轉を解して行きつまらぬこと、辛抱强い復興心、隣りにさゝげる犧牲心などは、我國民に在りては人間同志の說教や儀範などよりも、より多く。より强く天然の威力から敎化されたものである。

人間は本來零の境涯に立ち歸つた時、その瞬間ほど神に近い美しさはない。此意義に於て此瞬間ほど强く尊く偉大なものは無い。さういふ機會が我島國に斷えず反復されたなら古來幾多の異種民族をも打して一團と成し、化して一民族を形り得たのである。若しも、今日と雖も、我民性と國體の存續上何が一番有力であるかと問ふものがあらば、自分は如上の天然の威力に其首功を歸すべしと言ひたいのである。

自分は我國の歷史上、所謂封建時代をば最も忌はしき國情なりとして根本から好かぬものながら一たび非常な天威の發動時に際して流露せる、上下民人の懺悔の消息に觸れる每に何とも言へぬ尊とさを感ぜずに居られぬ。次の話頭は江戶幕政の末期に當つて、太平洋岸の各地に種々の天災地變が反復され、地震もあり暴風洪水もあり、大火災もあり、兇作飢饉は引續いて民衆を脅威し、おまけに時代相應の外交難さへ逼來つて實に氣の毒な場合であつた。けれども這般の民性はいつも一道の光明と輝いて、破壞の底から新しい社會を復興したのみか、その餘勢は終に維新の活劇を演出するに至つた。當時の歷史の舞臺面には色々の人材もないでは無いが、自分は第一に天然の方から觀察して、人間の小細工は只だその警策のまゝに動いたものと認めるのである。

天保のころ三河國の南邊の半島に、田原藩といふ小藩があつた。領主は三宅康直と云つて、古來此家は兒島高德の子孫筋だが、康直は時の大老酒井家から入籍した人で、聰明でもあり、家臣中に人物も多かつたので相當治績の擧つた藩であつた。有名な渡邊華山を擧げて家老役をたのみ、西洋風の學術から、戰術の改良

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

農政の事まで他藩に超出したものがあつた。所が天保七年は春から此地方一帶雨天がちで、夏になつても綿入の着物を要する日さへあり、農作物は皆目成育せず、八月十三日にはお定まりの底氣壓の襲來で民家の潰倒は言ふまでもなく、山林田畑の被害極度に達し、終に翌年の春にかけての大饑饉となつた。究除民心の悪化はさしも德化が行屆いた所にも波及する恐が見えたので、藩主は當時江戸表に病臥中の華山の許へ急使を立てゝ歸國を促した。華山は生憎重症で歸國が叶はぬとはいひ、心痛にたえぬ餘り、衷心の祈りを書册に認めて身替りの友人に賴んで之を藩主に提出した。『兇荒心得書』は其一ッで、人君の心得と家老の心得とに分けて親切に説明したものだ。こゝには此れは其項目だけを記することにする。

○人君必御行可成事目

一御恐懼御修省之事

一御膳を御減し、御遊樂を御愼被遊候事

一御人選被仰出候事

一御圍米御開き早々御救可被成候事

一救荒評議の書を御熟覽の上御撰被遊、能く其諫に御從ひ被成候事

一御積藏を發し民を厚く被遊候事

○家老心得之事

一調變を以て己が責と爲すこと

一飢溺を以て己が任と爲すこと

一君に敬畏の心を啓かしむる事

一社稷顚危の漸を虞る事

とあつて第一番に君臣爲政の局に當るものの懺悔を絶叫して居る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

次に領民への申渡には

○領中のものへ申渡

領中のもの我等を殿様とのみ心得居候は不宜候、殿様とは天子より重き位を被下、公儀より廣大なる所領を被下、萬人の上に居り廣き城内に住居候故、それを仰ぎて下より稱候名目にて、我等が心に取て實は領中のもの共の父母にて候、然る上は役人共は領中のもの共の兄にて候處、領中の者は唯尊き殿様重き役人とのみ心得、かりそめにも實の父母まことの兄と辨へざるは我等が心とは相違致し候。以來共我等を親役人共を兄と力に思ひ可申候。今年計らずも兇年に逢ひ、領中の者難儀可致か、親たる我等が心晝夜安からず、領中子たるもの共も深可察候。就ては今年の凶作にて諸色迄も拂底旁嗷々難澁可致か、其所痛心かぎりなく候。尤我等家督以來食物衣服を初め、身廻りの品より內外すべて、非常の儉約をいたし、昨年報民倉取建候も領中のものゝ耕作丹誠にむくい度心入にて候處わづか一年之積立、其上今年收納皆無同様にて念存通行屆かず痛心致し候得ば此度役人共へ嚴敷申付一人たり共餓死離散致し候ては我等親たる心如何に安かるべき様無之候故、必至に救ひ遣候はづに調置候間一同安心いたし、役人共申付方堅く相守り可申候右之通困窮の中に候得ば兄たる役人共甚だ難儀可致候。依之弟たる其方ども兄の苦勞を深く相察候て、みづからも可成食物の工夫儉約のいたし方、上下諸共力を盡し取續候様可致候。かゝる一統困難之中にて父母兄弟は勿論、親類緣者等に厚善事を盡し候もの、又は人之危難を救ひ施をいたし候ものは、天道に叶ひ候善人にて、誠に能く我等之志を汲み分候ものにて、是亦領中の兄共可申候間、格別の賞美可遣候。私欲を企候歟、又は惡を勸め候は都て領法に害あるもの、領中のものゝかたきに候間、嚴科に可申付候。其節かならず然々申間敷、尤罪料の事は親たる我等が心にては甚忍び難き事に候間、何卒我等に苦勞をかけざるやう心掛可申候。偖又親之身と相成候ては朝夕身近く居る子供よりも遠方に居る子供は一入心を痛候ものにて候得ば我等も時々廻村致し候間極難儀のものあらば無遠慮可申出候。父にも母にも我等一人を賴み

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

候其方共の事に候得ば、決而饑餓致させまじく候。必安心致し役人共の申付をそむかず領法堅く相守可申候、これも皆其方共之事を思ひ候よりの心に候間、此心をふかく相辨へ可申候。
右之通奉行小役人を初め、村々役人組頭、此分深相心得領中一統子供に至る迄無殘よく／＼可申聞候。

天保七申年十二月七日

藩主自からがかうした温情をもつて領民を愛撫した結果、領民相互に共濟し合うて上に厄介をかけぬやう心掛けた。翌八年三月、藩主から賞詞を下した文面は

○村中奇特のもの共へ

凶年に付此度困難のもの共へ金穀其他施し遣候志實に奇特の善根と上にも深く御感悦被遊候。追て思召も可有之候間彌以善心相はげみ、役人共申條相守り可申候。組合親類は勿論小前のものに至る迄、村中は皆一體骨肉兄弟も同樣の道理故、互に相親み粗略の振舞致まじく候。夫れ同類の患を悦び、災を樂み候事は虎狼と雖も無之候、然を己れ獨り事足れば人をば更に哀とも思はず、又は人のいたみをかへり不見、却て穀物の高値をうかゞひ利分を望み候輩は其心底おそろしくも、まさに天道にもどり終に神明の惡しみ難遁候。さればかゝる場にのぞみ、其舊惡を責むよりは先づ差當り其飢困をいたはり候を人の心とは可申也。たとへば新らしき衣類一つの仕立をのべ候得ば其代にて一人の命は可救とも申候得ば萬事此心を酌み分け專ら省略相用ひ、一人たりとも餘計に施し救ひ遣、互ひに農業取つゞき候手段のもの共は、村中の爲困難のものには命の親とも可申、且後々の手本にも可相成候間、折角善道相みがき可申候。

酉　三　月

又一面には寄附を受けたるものに對して、恩に忸れず家業に奮發するやうにとて、

○施しを受け候もの共へ

此度村中善根のものより穀類金錢其他施しを受候儀、老人病身のもの又は無據災難に逢ひ候ものゝ外は何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れも常々農業おろそかにいたし候故の事に候、同じ士民仲間より施しを請て今日を凌ぐといふは、口惜しき事には無きや。此所を能々相辨へ聊等閑に心得申間敷候。朝暮無油斷、此度施し候ものは其方共爲には實に親とも兄とも可申奇特之人物に候間、此恩分子々孫々に迄相忘れず、役人共申條急度相守り、組合組頭は申に不及、村中一同睦じく此上農業格別に相勵み、早く此度の惠に報い、且向後又かゝる時節に逢候節は奇特の善人と賞與を受候ように折角出精可申候

右之通庄屋組頭能々奉相辨一同心得違無之樣急度可申聞候。以上。

酉　三　月

こんな鹽梅で、當時一藩一人の餓孚を出さずに濟んだといふことであるが、天譴に對する古人の態度は大に學ぶべきものがある。此態度を以て此度の東京の慘禍を種々の方面から省慮することが出來れば、新らしい帝都の建設はあながち六ヶ敷からぬものと思ふ。

○『子供の家』たより

天長節祝賀茶話會寄書き

青山神宮外苑のバラックの下で柿と栗と盛り花と秋の香りを貪り喰ふ赦させ給へ南無阿彌陀佛。—五郎—

御子供の福田で體重が最大となつた唯合掌。—光次—

よせ書が俺の番に廻つて來たが何書いていゝかわからぬ。—久よし—

バラックの一軒ごとに日の丸が秋風になびいてゐます。おいしいお菓子や果物で今日を祝ひました。ごきげんよう。—石塚—

何がなんだか一つの百分の一も判りませぬが、然しリンゴ、柿、栗、サイダー、あんぱん、番茶は無條件に甘いですな。—中西愚童—

いつになつてもくだらない事ばかり考えて居ります　—夏井庄藏—

無所有の袂もかろし秋の風。—任光—

此宵このあかり身まはりにわが影の落つ。小鳥どもよ村莊のさゝやかな光塵に生きたゆるや。—黒岩冷濤—

悟り得るまで生きてゐたい。—石川生—

來る年もかはらぬ栗の風味哉。—青島—（表紙第三頁へ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

復興改建の精神的基礎

中桐確太郎

一

蘇東坡は嘗て歌うて曰く『脚力盡時山更好、莫將有限趁無究』と。登れども〳〵好い景色はつぎ〳〵にあらはれて盡くることがない。健かなりし脚も疲れはてゝ、もはや一歩も進み得ぬやうになつた時は更に一層美はしき風光は眼前に展開し來りて、人の憧憬追究の念をそゝるのである。有限の力、到底及ぶまじと知りつゝもなほ、無究を追うて止まぬのは實に人生である。

一體無限とは何であるか。色々六ケ敷論議もあることなれど、私は假りに之を解して、有限の囚はれより脱し得たる境地なりと云はうと思ふ。暫くかく解する時、無限は縦と横との二相を有するといふことができる。

横の無限とは一切の萬有と自分とは本來一體であることを悟る所に感せらるゝものである。私は之を自他一體の靈的體驗と名づけてをる。此の靈的體驗が心識を通じて來る時知に於ては自他一體の感となり、情に於ては自我解放に伴ふ愉悦となり、意に於てはこの感と情とを具體的に顯彰せんとする欲求となる。愛とは此の知情意の作用を兼備せる心識であると私は思ふのであるが、純なる愛は自我の擴張によりて得らるゝのではなく、自から我執の障碍を破することによりて成せらるゝものである。而かも身神に即せる有限なる我等は、不純にして不完全なる愛に囚はるゝを常とすれども、狹きより廣きに、低きより高きに、遂に一切他と一體たるの靈的經驗に達せんとする中心よりの切望を有意識的無意識的に有することは疑ふべからざる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

事實である。

縱の無限ともいふべきものは、また之を量的と質的とに分けることが出來る。量的といふのは無限に生き永らへることである。人間の有する欲求のうちにて最も强しと認めらるゝ生きんとする要求は、先づ之を目的としてをるのである。而してその中心となつてをるものは食欲とせられてをる。生物の弱肉强食より世界の大戰爭に至るあらゆる生存競爭や、不老不死の靈藥や、若しくば若返り法等、いづれも此の要求の化現ならぬはない。而かも現世に於て無限なるの望み遂に期し難きを見るや、願くは來世に於て朽ちざるの生命を得んと希ふに至る。殆んどすべての宗敎が此の要求に應じて起れるは事實である。

併しながら個體は到底死せざるべからず。死後の生活もとより信ずるに足らずとなし、乃ち生殖によりて子孫を後世に殘し、種族を萬代に傳へ行くことによりて、以て無限に生きんとするの要求を滿足せしめんと欲するに至つた。これ性欲の人間に於て强烈であり、食色二欲が人生欲望の根本であると論ぜらるる所以である。いづれにしても人間の等しく期する所の分量上の無限であるといつてもよからうと思ふ。

質的無限と名づけたのは、天賦の性能の限りなき活動發展である。物質的及び精神的の兩面にわたりて豊富を極めてをる文化文明は即ち此の結果に外ならぬ。そして人間の胸臆に存する最も切なる望みの一つは自由であるが、自由とは畢竟するに、各自天賦生具の性能を、何等の障碍を被むることなしに、すべての方面に向つて活動發展せしめんとするにあることは申すまでもない。

人は此の如くますく無限を追ふて止まぬのである。そして一つの欲望を滿足せしむれば更に新らしき欲望が起り、一つの理想を實現すれば、そこにまた新たなる理想が生じ來るのである。抑も何が故に此の如くであるか。これは恰かも桃の種子よりして芽を出し、葉を生じ、枝をさし、幹となり、花を開き、果を結ぶに至るが如く、その内に秘藏せられたるものがつぎく に開展し來るのであつて、無限性が各自に内藏せるが故ではなからうか。橫よりすれば一切萬有とは本來一體であり縱よりすれば無始無終の本體であり、また

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

そのうちに無限に開展すべき性能を種藏するのである。言葉をかへていへば、各自は實質に於て本來無限なるものであるからであり、その無限性を具體的に顯彰せんとするのが人生であるからではあるまいか。私は人生は自己本來の無限性を具體的に顯彰せんとすることにありと認むることによりてすべての疑惑が解釋せられ、凡ての問題も落ちつくやうに感ずるものである。

然しながら若し果して此の如しとするならば、人は寧ろ綽々たる餘裕を以て、焦らず燥かず、歩一歩、順を踏んで高きに登り、段一段にあらはれ來る風光をめでつゝ、以て內在の無盡藏を開展し行き、悠々遊戯三昧たるべきでなからうか、然るに人生の實際を見れば、常に頑強なる執着と、いら〳〵したる不安の念とを以て欲望滿足にあせりつゝあるのである。これは抑も如何なるわけであるか。

私は之を以て、自己本來の無限性が知識の偏頗に對してなせる一つの反抗より來るものであると爲してをるのである。蓋し人間の有する知識なるものは、只外部にあらはるゝ一面をのみ見て、內在の實相に徹すること能はず、人間を以て單に有限なるものとのみ斷定し去り、之を以て萬事を律せんとするのである。これ或は知識其物の成立に伴ふ餘儀なき特性であるかも知れぬが、人間本來の無限性は之に對して平かなること能はず。此の如き偏頗なる認識に對して自己を肯定せんとするのである。惟ふに自己賦性の實現に伴ひ來る焦燥不安の念は、此所に萠し來るのであらう。

人間の知識の此偏頗なる認定の迷雲を破りて、自己本來の無限性を體驗せしめんとするものは宗教であらう。凡ての宗教は何等かの方法によりて皆體驗に達せしめんとしつゝあるものであると思ふ。今は此のことにつきて詳說することを略するが、此の如き宗教的經驗によりて執知の迷妄を破し、自己本來の無限性を悟るに至る時、此世は此儘、瑞嚴莊麗を極めたる天國淨土であることを感ずるものである。これは釋尊が菩提樹下に端座し曉の明星を見て大悟徹底せられたる時に感じられたるものであつて、それは經典に美はしき言葉を以て描かれてをる。基督にも同樣の體驗の存せられたるべき事は、ソロモンの榮華の極みを以て野の花

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の一つだに若かずとなされたる一語にも見ることを得るのである。その他の聖者方にも、その周圍の事情やその達成の境涯によりて、その言ひあらはし方などを異にすれども、大底皆同樣の經驗ありしことは疑ふことが出來ぬと思ふ。

大悟徹底して宇宙の實相を觀ずる時、此の世は此儘、天國淨土であるが、併しながら一たび還り來て現實の世界を見る時、此世は依然たる衆苦の娑婆であり、なやみの憂き世であり、また地獄でさへもあることを感ずるのである。これまことに知識の上に於ては矛盾せることであるが、聖者方に取りては經驗上の事實であるやうに思はれる。そこで、どうかして此の地獄の苦患をとり去り、娑婆を淨土となし、此世に天國を將來したいといふ祈願が生じ來るのである。此の祈願の湧く所、こゝに大慈大悲の大活動が現じ來るのであるが、こゝにまた看過すべからざるは、此の如き體驗をなせる人に必ず伴ひ來る懺悔の念である。懺悔にも種々あることであるが、かゝる人にあらはれ來る所のものは、猶如火宅の地獄ともいふべき此の娑婆世界に滿ちたる罪惡苦惱は畢竟するに、その責自分にありとしてその罪を負はんとせらるゝ懺悔の念である。釋尊成道後の黑衣破鉢の托鉢生活も、そのあらはれであらう。また基督が十字架上濺がれたのは世の罪を負はれたる懺悔の血であらうと思ふ。如來超世の四十八大願さへ如來の懺悔と見ることも出來ぬではないのである。而して此の如き懺悔は古今の聖者方が、何等かの形式に於て等しく感せられた所であると思はれるのみならず、また多少の宗敎的經驗を有するも者それ〴〵の程度に於て親しく參じ得る實感であると思ふのである。

以上私は甚だ大ザッパであつたが、人生の意義は自己本來の無限性を具體的に顯彰せんとするにあることを述べ、自己本來の無限性を體得せられたる聖者方が、此世を此儘、淨土と觀せらるゝと同時にまた此世の罪惡苦患に同じ、その罪を自から負うて天國淨土を此世に將來せんが爲めに、懺悔と祈願とを以て献身的に努力せらるゝことを今更のやうに、ことことしく揭げ出したのであるが、それは一體何の爲めであるか。此の如き人生觀と精神的態度とは、今次の災禍に處する所以の精神的基礎たるべきものと思ひしが故に外なら

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ふのである。

ぬのである。私は此の立場からして震災後世間にあらはれたる思想の傾向につきて少しく考へて見たいと思

二

此たびの大震災、引きつゞいての大火災、それ等によりて引起されたる慘禍が餘りに甚しかつたので、人心はこれによりて一大激動を感じ、いろ〳〵の思想が今更の如くに呼び覺されたのである。三百年來の努力の結果が數分間の震動によりて大半潰滅に歸し去つたのを見れば、自然の力の餘りに偉大にして、人爲の力の案外に弱小なるを感ぜざるを得ずとは多くの人の感想に直ちにあらはれて來た所である。併しながら我が國民の大多數はこれが爲めに深刻なる厭世思想を起すことなく、また極端なる自暴自棄に墮するものも、さほどにはないやうである。一時之を以て天譴であると氣附きたる者も少くないやうだが、災禍を被れるものゝ中には、何の罪なしと思はれしものゝ犧牲になりしもの甚だ多く、災禍を免れしものゝうちに却つて天罰を値ひするもの尠からざるを思へば、その公平甚だ疑はしく、縱しや罪ありてその罰を受けたりとするも、人間だに敢てし得ざる程の慘害を下すが如きは、果して慈悲ある神の意と見るべきであるか。要するに此回の災害の如きは、神意にてもなく、天譴にてもあらず。地球の一部分がその自然の法則にしたがひて、微動したる結果の一現象に過ぎぬ。更に考ふれば、その震動も、さほどに强大なりしものに非らず、彼の慘禍は寧ろそれに伴ひて起れる失火の致す所である。防火の設備さへ十分なりしならば、必ずしも避け得ざりしことでない。縱しや地震が更に大なりしとするも、是に對する耐震設備さへとゝのふるならば、必ずしも恐るゝに足らぬのである。啻に地震ばかりではない。自然の活らきの中には或は暴風、或は洪水、或は噴火等、人間の慘禍を惹き起すべきものが、甚だ多く貯藏せられてをる。自然にはもとより何の意志もなく、何の目的もないが人間にとりては冷刻なる殘忍性の所有者であるといはねばならぬ。『人類の使命はたゞかうした殘忍性をもつ自然の生命を致死的に抹殺することにある。またその事に努力すべきである』とさへ說く者があ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

るのである。

此の如き立場にある人の考へにては、人生の意義は自然を征服し、之を利用し、こゝに文化を開き行く所にある。自然に畏服し、之に忍從し、自己の生活を創造することに努めない者は遂に滅亡せざるを得ず。人間文化の理智の指導に從ひ科學を完成することによりてのみ成し遂げらるゝのである。曰く『要するに人類理知の將來の光りは一にかゝつて人類が自然に反逆し、更に自然から解放されて自然を征服し、人間自からが世界の創造主に復推することにあらねばならぬ。その曉には、地震も火事も噴火も、人類にとつてはもう關心すべきものは一もないのだ。科學が一切を征服したのだ。或は自然がどんな活動をしたとても、人間の營みはそれを無視するほどに準備出來てゐるのだ。そして科學が人間の爲めに不滅の堅城を樹てたのだ』と

(婦人公論誌上の千葉龜雄氏所說)

此の如き立場を私は假りに名づけて自然征服主義といはうと思ふが、震後の思想界には此の如き立場に立てをる人は決して少くないやうである。私は今之を評論せんとするのではないが、その反逆といひ征服といふのは如何なる意味であるか。自然といふものに若し意志も目的もないとするならば、之に對して反逆すといふが如きは少しく異樣なる言ひ表はし方といはねばならぬ。我等は自然の中に生れ、自然の中に死んで行くのである。生きてる間の肉體は遂に地球の運轉以外に離るゝこと能はぬではなからうか。縱しや他日、地球の引力に支配せられざる程の速力にて飛ぶことを得るにしても、やはり自然界の科學的法則以外に出づることを得ぬのではなからうか。自然を征服するといふにしても、科學の祖ベーコン卿のいひし如く、只自然の法則に從ひ之に調和して行くことの外はないのであるまいか。文化なるものは自然と相和しこれと一つになりて行く創造的生活によりて完成せらるゝものとして敢て差支へないやうに思はるゝのである。何ぞ必すしも反逆とか、征服とかいふ如き厲語を用ゐるを要せんやとも謂ふべきであらう。

併しながら此の如き厲語の用ゐらるゝに至つたのも、考へて見れば人間は本來無限なるものであるとの靈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

感を有するからであると思ふ。人間の苦心して作り上げたる結果をば、一瞬時の間に、自然のために破壞せらるゝこともあるのは、今回の事實に徵しても疑ふべからざる事實である。此點より見れば自然は實に冷刻殘忍なる破壞者である。而してその雄大なる力の殆んど測り知るべからざるは、その破壞の跡を見ても身の毛のよだつ許りである。然かも人間はかゝる偉大なる暴力をものゝ數とせざるが如く、八顚八起、灰燼の中より躍り立ちて、復興の事業にあたり、理知の力を奮ひ起して永遠に此等と戰を宣せんとする。これ雄大無限の自然と等力あることを自覺するのでなければ、敢てし得ぬことである。眞に力及ばざることを認むるならば、人は自から諦め、自から割し、之に屈服、忍從して止むであらう。强頑なる奮鬪力は自己の無限なることを無意識的に若しくは潛在的に自覺する所から生ずるものと謂はねばならぬ。かく考へ來れば、こゝにも人間は自巳本來の無限性を具體的に顯彰せんとしつゝあるものたるの事實を認めざるを得ぬのである。しかも眞に自己の無限性を靈覺する時は即ち自然と一となりたる時であり、自然と蝸和した時である。知力により科學を完成し、以て自然を利用し、或は之と相爭ふが如きことありとも、そは自から遊戲三昧と化し去るであらう。此の如き境地は、反逆といへる普通の用語例より、怒りや、恨みや、憎惡を取り去り得るものであらうと思ふ。征服といふこと必ずしも不可ではない。たゞ此の如き心境を以て行ふべきものたることを認められんことを希はざるを得ぬのでる。

三

震災劫火の慘禍が帝都の一半を壞滅に歸せしめたる時、天譴といへる思想は電の如く、萬人の胸臆を射り社會の各方面に反響し、共鳴したのは事實である。その禍害の及ぼされたる範圍と程度とに關する疑惑によりて、之を無視せんとするものもあるであらうが、少くとも一たび、おごそかなる感激を多くの人に與へたることはうち消すべからざる事實であらう。これは果して科學的無知によれる宗教的迷信に過ぎぬであらうか。敬虔なる科學者の告白する所によれば、科學の進歩は未だ幼稚にしてその明かに得たる所、僅かに濱の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

眞砂の一少部分に過ぎぬとの事である。果して然らば天譴なるものあることなしと輕々しく斷ずることは科學的良心の許さざる所であらう。併しながらまた是と同時に、此度の災禍を以て殊に天譴なりと斷定することも如何なものであらうか。思ふに此の災禍によりて深省を發せしめられ、切に自責を感じたることは如實に經驗したる事實であらうが、此の經驗的事實を推して、天譴に歸せしむるは信仰によれる一つの推斷ではあるまいか。もし推斷とすれば、之を一に限るべきでないことはいふまでもない。しかしそれはいづれにしても、此度の災禍を以て一の天譴なりと信ずる人々も、少からぬことゝ思ふ。然らば此の如く信ずる人は天譴なることを疑ふ人に對して如何に說明するのであるか。生田長江氏は雜誌『雄辯』に於て左の如くにいはれてをる。

『たゞ斯ういふ風な（即ち天譴に對する懷疑的の）考へ方をしてゐる人々にまで私はいひたい――『懲戒としての所謂天譴は各個人の道德的責任を問ひ、その反省を促さうとする場合もあり得るだらうし、團體そのものゝ道德的責任を問ひ、その反省を促さうとする場合もあり得るだらう』と。

一人の泥棒に於て、直接物を盜んだのは手であつて足でなかつたともいへるであらう。しかしそれ故盜みに對する懲罰として鞭が足にだけ加へられて、肝心の手に加へられないのは不公平であるといつたら、恐らくは芥川氏、菊地氏等といへども、其言葉を笑はないでゐないであらう。なぜならばその懲罰は手の責任を問ふよりも、寧ろ身體全部、人格全部の責任を問うた結果であり、又その苦痛が全體によつて感受され、全體的反省を促し得べきことを豫定してゐるからだ。

社會的感情の極度にまで幼弱稀薄な、そして中ぶるな近代的歐羅巴的個人主義の迷ひから、覺めきれないでゐながら、ひとりでいゝ氣になつてゐる日本の『文士』種族でもない限り、大抵の堅實な常識ある人々は、各個人に生活と意志とのある如く、團體にも生活と意志とのあることを、從つて團體も各個人と同樣、道德上の責任者とされたり、反省や、改悛を要求されたりすべきことを理智の上にも感情の上にも

ちやんと承認してゐるだらう。』

如何にも筋の通つた面白い説明であつて、もとより異論を挿むべきではないが、更に一歩を進めて考へて見るに、個人と同樣生活と意志とを有つてをり、道德上の責任を問はれたり、反省改悛を要求せられたりする團體の範圍は何れに限るべきであらうか。此の如き團體の存在は要するにその團體を組織する成員が相互に有する自他一體感の上に成立つに外ならぬと思ふ。然かも此の如き自他一體感は或る特殊の團體生活に局限せらるべきものではない。佐久間象山翁が『余年二十以後、乃知匹夫有繋一國、三十以後乃知有繋天下四十以後乃知有繋五世界』と申されたるが如く、自他一體感が發達して一切萬有と一體たるを感ずるに至りたりとせば、此の如き境地よりしては如何に天譴を解すべきであらうか。自己が自己に加へたる災禍とも見らるゝ時、懲罰としての推斷にも幾分の影響なきを得ないでなるまいか。然れども反省自責の感は事實である。然らば之を如何に解すべきか。

私はさきに一切他と一體たるを感じ、自己本來の無限性を體得するに至りたる時、此世は此儘天國淨土であることを觀ずるのであると申したが、眞に此の觀を爲し得るならば、地震も、大火も、洪水も、その他一切の災禍も少くも惱みと悶えとの刺を失することを覺ゆべき筈である。『心頭を滅すれば火亦涼し』といふが如きは、禪僧の放言とのみ見去るべきものでなく、古來幾多の殉教者が慘酷なる處刑を甘受したる如きにも決して痩我慢とのみ見去るべからざるものがあると思ふ。然るに天然の災禍に對して此の如くなるを得ず、甚だしき苦惱と恐怖とを感ずるは、未だ本來の無限性に體達し得ざるものであつて、その然かし得ざるは、主として自己の我執に囚はれつゝあるに外ならぬのである。然るに今や非常の大事變によりて此の事に氣づき、こゝに慚愧自責の念自から湧かざるを得ぬのである。

私はまたさきに、人生の眞義は自己本來の無限性を具體的に顯彰するにありと申したが、之を別語でいふならば、天國淨土を此世に開顯することに外ならぬ。何となれば、天國淨土とは要するに愛の基礎の上に立

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てられたる自由の國土である。そして愛とは自他一體感の實現的要求であり、自由とは各自の禀賦を活動發展せしむることであるからである。然るに此世が娑婆であり、憂き世である主なる理由は、愛の活らきの稀薄狹隘なるがためである。故に此世にて努むべきは先づ愛を發生弘布せしむるがために、各自の禀賦を活動發展せしむることである。しかも身神の不完全に伴ふ種々の障害は此要求を十分に滿足せしめぬのである。こゝに於て、自然の要求として心に存するものが當爲の要求となつて來る。これ即ち道德的要求であるが、何人が果してよく、その道德的要求を十分に滿足せしめつゝありと感じ得るであらう。しかも人の此の如き責任感は平生に於ては、痲痺せるが如くに睡りつゝあるを常とする。たゞ非常なる事變に遭遇して今更の如くに覺醒せしめらるゝのである。責任の感はその德に比例するものであるから、凡ての人に於て同樣なるを得ぬことは勿論であるが、此回の災禍によりて、凡ての人がそれ〴〵の程度に於て反省自責の念をその胸臆に電感するに至つたのは自然のことであると思ふ。

然らば何が故に之を天咎、靈譴などゝ感ずるのであるか。蓋し一切他と一體となり、絕對無限を靈的に體驗する如きは長く住することを得ざる境地である。人は忽ち肉體精神に即しつゝある個我に還り來らざるを得ぬのである。而かも顧みてその靈的の境地を想望する時、それを神となし、佛と唱へ、天と呼び、若しくは見神、法悅などゝいふのである。例へば無色の光線その通過し來る物によりて屈折し、種々の色彩を放つが如くである。前述の如くにして得られたる深省自責の念もまた所緣に應じて種々に賦彩せられ、或は天の警告、若しくは懲罰と感せらるゝに至るのもまた當然のことであると思ふ。

而してまた天譴を信ずるものは、天を信じ、神を信ずるものである。譴責を與へ、反省改悛を促がすの神は、正義の神にしてまた自から慈悲の神であるのである。此の如き神を信ずるものは、艱難にも喜びをなし憂患にも慰めを享けつゝ災禍を以て愛の鞭、天の恩寵なりとして感謝しつゝあるを常とするのである。何が故に此の如きを得るのであるか、私を以て之を見れば、此の如き聖悅は、前述の如くにして靈的に經驗せら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れたる天國淨土の歡樂の反映に外ならぬのである。

天譴に關する說を、以上の如く觀察し來りて、人生は自己本來の無限性を具體的に顯彰せんとしつゝあるものであるといふ人生觀に裏書きし得たるを私は感ずるのである。

四

私の以上の如き言說を聞くならば、人或は笑つていふであらう。それ等は單に空疎なる概念の遊戲に過ぎぬ。或は天譴といひ、自然征服などいふもこれまた災禍に直面せざるものゝ呑氣なる考へであつて、緊張味を缺くこと夥しい。家は崩潰し、財產は全く燒失し、九死に一生を得、身を以て僅かに免れたるが如き、眞に赤裸々となりて生活のドン底に觸れたる者よりして見る時は、人生の眞諦は究竟する所、生きんとする欲求に外ならぬ。人は如何なるものを犧牲にしても先づ自から生きねばならぬ。そのことの爲めに眞に必要なるものをのみ求めつゝ、自我を主張し、擴大し行くことが人生の目的でなければならぬと。如何にも此たびの震火の際には、人間性の此の如き方面も赤裸々に暴露したることは事實である、或人の如きは始めはその老親を援けて共に遁れ走りつゝありしも、火勢ます〳〵強く危險いよ〳〵迫まつて來たので、遂に思ひきつて親を捨てゝ走らうとした。親は哭き叫んでしがみつき離れないので、遂に帶を解き衣を脫ぎてその老親をつき放して、獨り生き延びたのであると自から語つたそうである。然れどもまた一方に於ては、かの被服廠內において、捲き起り來る火の旋風より八十餘歲の病親を助けんがために、七人の眷族相擁して之を奄護しつゝ獨り老親を殘して、餘は悉く之がために慘死を遂げたといふが如き人情美の發露も決して尠くなかつたのである。此の兩者、果して孰れが人生の眞諦に觸れたりとなすべきであらうか。老親を見棄てゝ獨り遁れたりといふ人、其後內心の呵責に日夜さいなまれ、懊惱苦悶の中に今は喪心者の如き狀態にありといへば、自我のために一切を犧牲に供して顧みずといふもの必ずしも人間の至情を滿足する道ではないやうである。幸ひに此の如き苦悶を瞞着し得るとも、豫測し得ざる人天の災害は常にその身を圍繞すと感ずる時、人は果

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

して安堵することを得るであらうか。かゝる不安の基礎の上に創造せらるべき人生文化は果して幾何の價値あるであらうか。

之に反して、人もし我執の堅殼を破りて、一切他と一體たり、自己本來の無限性に入ることを得ば、これ即ち生死を超越して不朽の生命に入つたのである。而して愛の本源に觸れ、此世は此儘天國淨土たることを靈的に體驗することを得るのである。乃ち此靈的體驗を具體化せんが爲めに、各自の賦能を自由に活動發展せしむるを得ば、これ即ち天國淨土を此世に將來するので、眞との文化を創造開顯することに外ならぬではないか。

人或は此の如きを以て、個我人格の滅亡となすであらう。然れども抑も我とは如何なるものであるか。自己の身神を犧牲に供して自から滿足する愛の經驗を有する者は、眞の我は自己現有の身神に局限せられてをらぬことを自覺せざるを得ぬ。そして愛とは自他一體感である。一切と一體たる時、我は一たび一切に歸入するけれども、再び還て身神に即する時こゝに新たに眞との我の甦生を感ずるのである。釋尊始めて生るゝや、右手天を指し左手地を指し『天上天下唯我獨尊』といはれたりといふことである。惟ふに、菩提樹下に端座し、大悟徹底して新しき眞我に降誕せられたる時にも、同樣に叫ばれたのであらう。此の如くして感ぜられたる眞との我こそ、天上天下に唯一なる尊嚴さを有すべきことを感ずるのである。人格の尊嚴も此の如くにして始めて感ぜらるべき筈であると思ふ。

今や帝都の復興に因みて精神の復興改建もまた大に叫ばれつゝあり、然らば如何なる基礎を定むるを要するかは深く慮らねばならぬことゝ思うて、平素考ふる所を少しく述べたのであるが、私は更に進んでその地鎭祭には懺悔奉仕の犧牲を要することを述べたき豫定であつたのであるが、今やその餘時を有せざるに至つた。のみならず以上の陳述もまた甚だ粗略であつたことを謹みてお詫をしてこゝに筆を擱く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

背後に立てるものあり

松下吉衛

外苑バラックの『子供の家』から『中部バラック事務所』へ、續いて『震災救護打合會』や『淺草公園無料宿泊所』へ（賀川さんのお招ぎ）、また深川猿江裏町、富川町一體の散在バラック調査や（善隣舘のお求め）集團バラックの管理へ（市區役所の御依賴）……托鉢はそれからそれへと弘められつゝある、深められつゝある。たゞ吾等の微力と不德を嘆くのみ。大神よ、守らせ給へ！

ほんとうのことがやらせてもらひたい。名はどうでもよい、形もかまはない。からだぐるみ生活ぐるみ、ぶちつけて行くんだ。

だけど、血が流れるぞ！

いゝとも。

泣く者があつたら？

ウ、、泣かしておけ。

日曜社會事業團の金澤さんが、鉢植の花とレコードを持つて各集團バラックを慰問されての感想——『托兒所は多く日曜を休んでゐるのに、「子供の家」があいてゐたので、ほんとにうれしかつた。それに子供が生きて見えた。』

お世辭をいふ金澤さんではない。同人諸兄姉、吾等のいのりも、まんざら、さじではなささうだ。

ノンハリデー　サーヴイス（無休奉仕）！極樂には晝寢なしとか。

火中蓮華ヲ生ズ是レ稀有ト謂ツ可シ。欲ニ在ツテ禪ヲ行ズ稀有ナルコト亦此クノ如シ。（維摩經）

今の世に捨身を願じ報酬なしに働くなどいふ者が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

何處に何人あるか？　ほんとうに同人の存在を思ふと胸の躍るのを覺える。當番としては殊にこの感が深い。だから此度の震災救護のいのりのやうに、幾人もの赤痢患者その他すくなくない犠牲者を出させられると、實にたまらない氣がする。また、誰かゞつぶれたときく、ハラ〳〵させられる。

併し、自分は、猶、信ずる、同志を思ふ友情と弱い人情とはハツキリ差別されなければならないと。同志が苦忍のさまに涙をのんで直面する心を知る人は知つてくれやう。一燈園生活者の量的增大が質的低下を來たしたらどうするんだ。

慈悲の假面によつて如何に多くの魂が甦りをさまたげられたことか！

そこには實に驚くべき雜多の人生がある、世界がある。甲にとつての常識が、乙に對してどうしても理解に苦しむ變態事である例は決して珍しくない。宇宙間に最大距離あり、それは『人』と『人』との間にちがひない。一燈園のやうに起きるから伏せるから生活の一切をあげて協同にしてゐる者同志に、何かと感情の衝突を見たり、意志の疏通を缺いたりすることのあるのは、免れがたいところではあるまいか？　たゞ、お互は、本願に於ては一つなる筈だ。どんな場合でも惡意だけは持ち合ひたくない。

批評はいゝ、人身攻擊は醜い。

同人方が各その個性に應じて力一パイの躍動を現じつゝ、しかも全體としての奉仕の調和を亂さない歩み！

不德無能の自分が當番としてかうした至上境の實現を願ずるのは、身の程を知らぬものかは知らないが、自分は日日夜夜にこの祈願をこめてやまない。當番が行政官、事務員、外交員に墮したら浮ばれないから。

デッド　モノトーン（DEAD MONOTONE）は人間を生き埋めにする。センチメンタリズムは大感情を殺す。自然の性に還らう、諸兄姉！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

裸人禮讃！

あの人がと思ふ人が意外な感じを自分に對して持つて居ることを知ると、幻滅に近い氣持に自分は導かれる。これが精一パイであり、これ以外仕方がないとは思ふけれど。

觸れる人、誰しもの心と自らに水の流れるやうな人格に自分を築きあげたいものだ。S博士などは天性さういふ人柄の方のやうに思へる。

『全東京集團バラック居住狀態調査表』を謄寫版におこすので、原紙書きを一日したら、中指がいたんで仕事が續けづらくなつた。鐵筆を擱いて、隣り机のY兄を見ると、指に繃帶がしてある。Y兄は殆んど連日の原紙書きだ。とうから指をいためてゐられたのだらうに、自分が同じ經驗をするまで氣づかなかつたとは鈍すぎる。廣くもないテント張りの內で毎日々々机を並べて顏をつき合せて居ながらかうだ。自分等の體驗の乏しいところから、同感すべくして同感し得ない世間の苦惱の如何に多いかを今更の如く考へさせられる。

あるかんばしからぬ事件を報ぜられて在京同人左の申合せをなす。事件は決して他人(ひと)事ではない。あゝいつた環境にあつては、あゝなる外なかつたのだらう。今更、誰を咎めだてすべきでもあるまい。お互、前科者なのだから、みんなしてわびあつていのりませう。

〇日々行持

大正十二年十一月十二日平和記念日申合

一、黎明起床　一、淨身　一、作務
一、靜坐祈禱（六時半から卅分乃至一時間）
一、朝食　一、作務（八時から正午まで）
一、晝食　一、作務（後一時から五時半まで）
一、夕食　一、自習（夜二時間）
一、感謝就床

皆俱成就大圓[illegible]の本願に添はんがため
身に叶ふ程の戒は守り合ふこと

九つになる吾が次子よりの手紙——

『バーちゃん、お丈夫ですか。だん／＼寒くなりますから、お身體をお大切にして下さいませ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

兄さんもぼくも元氣です。昨日運動會があつて二人とも一等賞を取つてごほうびをもらつて歸りました。バーちゃんがおるすなので、なんだかつまりませんでした。どうかお身體をお大切にひなんみんの人々をおせわして下さい。兄ちゃんと二人で仲よくおるすいをしてゐます。

バーちゃんおるすでさびしいの
ごはんを食べてもさびしいの
學校へいつてもさびしいの
家へかへつてもさびしいの
ばあちゃんおるすでさびしいの
一等とつてもさびしいの
ねてもおきてもさびしいの
ばあちゃんおるすでさびしいの

ぼくがつくつたどうようです。さよなら

十一月十四日　光民より

父上様

同人諸兄姉の身上をうかゞへば、老親に叛いてきてゐる方、兄姉に叛いてきてゐる方、妻子に叛いてきてゐる方等が決して少くない。或は大半を占めてゐるかも知れぬ。

私共のこの生活から、もし光が産み出し得ないなら、それこそ墮地獄だ。道德はさう容易く蹂躪し去られるほど權威のないものではなからうから。

有島さんの三人の遺子のこと、落合直文さんの歌『父上よけさはいかにと手をついてとふ子を見れば死なれざりけり』が、ふと、心を過ぎる。

仕事即修行でおすんだ。概念をいぢくりまはす役は、おのづからその人があらう。しあべるものはしあべれ、書くものは書け。宇宙に書く心！

震災救護打合會に托鉢してゐる同人に、ある方の御好意を通して、ある所から、日給一圓八十錢十人分の御供養が惠まれてゐる。在京同人三十餘名の糧なり雜用なりは、大體、これで支辨されねばならないのだ。それで、吾々は『昌平運動』を起す必要にせまられることが屢々ある。『昌平運動』とは、一食十錢の昌平橋慈善食堂に通ふことを意味する同人間の新造語だ。吾々のテントの作務は朝七時から始まる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ので、六時半には昌平橋へ行く。先づ、食券を買ふのに、ずゐぶん、ごたつかねばならぬ。食堂に入り一瞥を加へよ、さう氣の弱いものでなくても、暫く佇まされずには居られまい。食卓が滿員なことは勿論だ。食卓と食卓との間――人ひとりが歩まれるほどの幅しかない――にも二列をなして人垣がつくられてゐるではないか。後至者は、更にその背後に立つて待たねばならないのだ。だから席の奪ひ合ひで口論なぐりくらが、毎朝きつと幾組か演ぜられる。いよ〳〵自分の番がきて箸をとる段になつても背後に待つてゐるものがあると思ふと實に氣が氣でないートかみも汁一口すゝるにも、時間と力に、むだがないやうにと努めさせられる。どんぶりめし一パイ一椀の味噌汁、しんこ若干を、食べ終る頃には、ゼイ弱な私の顏面筋は、殊にあごの附け根のあたりに可なりの疲勞を覺えしめられるのを常とする。

『背後に立てるものあり。』吾々の背後には、種々な要求者が不斷に多數ひかへてゐるわけだ。怠慢の故に待ちぼけばかりくれてゐるはすまいか？

――十二、十二、三――

冬は迫る

河村清太郎

兩側の步道は
燒落ちた瓦と煉瓦の山――
街路は狹まり
電車は通はず
埋れた線路の上を
默々として急ぐ
眞黑な姿の人々
そして
自働車は暗き街路を馳り
荷馬車の響きは
行人の心臟を蒜かす。
あゝ夕ぐれの巷に
冷たき灰の上に
烈しき風は吹き立ち
震災後の帝都に
初めての冬は迫る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

張ぼてに澁はき

天香

縁側に桐の葉が一つバッサリと音して落ちたと思ふと、電話がかゝつてきて、同人のおさない子供が今しがた疫痢で死んだとしらせてきた。法喜(かない)がすぐに京都病院へ往く、私はどうしても今日は何かを書かねばならぬので原稿用紙をのべたり巻いたりしている。お客さんは引きもきらずにおこしになる。

此頃の私はあまりに不自然な生活になつている、おはなしあいてになり通し、考へねばならぬ事をたのまれ通し、一以貫之ではあるものゝ、あまりに複雑になりすぎている。近い頃結婚問題がそれも園以外のおつれの家の結婚問題迄が、たのまれるまゝに扱はれる。勿論一燈園生活に深い交渉はあるのであつて、たゞ徒らに世話するのではありはせぬ。けれど私の心身は今少し筋肉の運動をとらねばならぬ。

考へることでなふて起て仕事をするときのたのしさ、そこには自然の調和がくる。己れからさられての考へ事でなく、解く爲めの考へでもいつの間にやらとらわれる、それが身體にも及ぼしてくる、肩がこる、腹の力がぬける、無暗にものを呑みたくなる、汗になりすぎる、横にねたくなるといふ調子。法喜(かない)にたのまれて、張りぼての澁はきをする、何ともいへぬよい氣持。五合の澁を二つのはりぼてにそれからそれへと塗つては乾す、かはくはかはくはよい氣持。お洗濯ものを敷のしをしながら。

『あゝ有難い、それがかわけば、そこらのものがきれいにかたづいてしまいます』とほんとにうれしそふに禮をいふ。

何をいれるのか、浴衣に單衣、腰巻シャツ、或は預りものまたは我等のもの、二はいつめても質屋では恐らくは五圓札一枚かしてはくれぬほどのもの。

けれども『そこらがきれいにかたづきます』は大きなうれしさ。つゞれ錦のちらけてあるよりは浴衣のかたづいてあるは心に落着ができてよい。物がかたづくは心がかたづくのである、澁をはいてもらわねばと思ひながらツイ私にもいひ兼ねていたが、そこにさら〳〵とかたづいて、法喜によろこばれて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

見るとすると、その滋はきの仕事は家庭の平和の糧ともなる。實務ほど難有いものはない。

机の上にのべてある原稿用紙にまた向ふ、何となく氣が重もくなる。人に問ねられて答へるのはたやすい、同じことであるはづなれどなせ自分には筆とるがうるさいか。(一般の讀者から質問されているのだから同じことじやといわれゝばそうである)

法喜が報告もれしたかのやうに、

『花ちやん(今死んだ子)が、かわいゝ小さな兩手を合掌せてきれいな顔していましたぜ』

『そうだろうな、まだあしかけ三つだからな、罪がないね、一燈園の人はいつていましよふね。』

『あまり多くても困ろうし、丁度よい程でしよふ。』

何といふてもまだ清淨である。清淨といふのは戒律堅固と云ふ意味でない。思ふまゝを振舞ふていて清淨であるといふのである。そんならといふて此頃の戀愛問題のやうな、思ふまゝを振舞ふといふのとは大きな相違があるは言ふまでもない。

此頃私の處へ此頃はやる戀愛問題できた方がある一燈園同人ではないが多少因縁のある人です。三角とか四角とかの關係であつて、もつれてどうするわけにもゆかぬとのこと、私はどうすることも出來ぬたゞきいて、いたわしい感じがした。その人はいふ

『わたしは少しもやましい事はない、そうしてこれを正直に告白することが出來ます。まことにすなをな心持で』云々と。

それはそうかも知れぬ、けれどもその人の息を見ているとどこかに無理があるやうで、肩で呼吸をしていられるやうにも見へる。又第一またとやましい事なくば別に話しにくるにもあたらぬ、また少しもやましい事はないなどゝいふこともいらぬ。若しも是がおさなごであつたらどうか。小便を高貴の人にたれながしても挨拶一つするでない、勿論『やましい事はない』などゝいわぬ、次から次へと戯れている。分別した無邪氣とほんとの無耶氣は根底がちがふ、考へたすなをさと考へないすなをさとは全く別物である。

すれば分別心でのさとりはあぶない。無分別心はそれ自身さとりにちかい、おさなごの權威もそこにある。花子の死、桐の葉のバッサリと音して落ちた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

にも似たるかな。花子よ、おぢさんは今此張ぼてに溢はいているぞや、トンボッリの俳句など思ひ出してまた一生懸命に溢はいた。

一燈園にも戀愛問題は澤山ある、それはあるべきである、もしもなければそれこそ大變である。けれどもどこかに樣子ははつきりちがふ、私は第一自分を反省する、それは私の戀愛問題がどのやうな狀態であつたかと反省せずに同人の方々に賴むわけにはゆかぬからである。第二に無理にならぬやうにだけして下さいとたのむ、それは園の生活は無理をせぬ生活であるべきであるから。第三にその活き〳〵した問題を糧にしておひかりに歸つて下さいと祈る。是は人類の執着の內此性の執着程强いものはない、また穴勝之れを捨てねばならぬといふことはない、けれども執着しては解脫は出來ぬ、玆に無相不二の白道がある、それを無手にてつかみ無心にて體し、水火の內に蓮をさかすには尤もふさわしき苦味難透の活公案である。此鉛の熱湯をあびて出よ、人間だからなごゝ弱根をはかずに、光にすがりて一向道をあゆまれよ、そこに許されべき人間味は無理のない莊嚴を以て與へられるはづである、『與へられるなり』といふ勿れ、その求むる心は苦痛でないか、我に少分の經驗あり、いつかまたまとめて話しもするときがあらう、『閑さや願ひなき身の神詣で』戀ふておしみなく與ふるに止めるときに清淨にして自在がある。順逆不二ともいへぬことはないけれども逆に出るは危さが多い、旣に不二ならば與へておけ、與へるだけなら一切はさわりがない、そこから悠々として許されるをまつ、玆に一燈園の存在性がある。理屈をつけて奪はんとすれば、よし徹しても魔性を帶びる、一燈園生活とは一つにならぬ。

ありがたい事は園に此氣分がある、是は光に謝せねばならぬ、やさしい心、たとへ如何なる事ありともやさしく己れを反省する心、何事もみな共同の業と心得て落付いて整理をする餘裕ある心、己れをごこ迄もわびる態度、それがあるのが難有い。たとへおさなごの樣に無邪氣でなくとも、そは許さるべきうつくしき心である。どうしても今日は筆がすゝまぬ五時になつた、小さい庭の樹も石も水をほしげに燒けている、水をうたしてもらわう、張ぼてもシツカリ乾いたことであらう。（大正十二年八月十九日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

みなさまにおわびして

住田蓮車

去年の今頃は、鑛山の訴訟事件で、みなさまに、大層御心配をおかけしてゐたことでした。どうしたまわり合せか、その一年後の今年の秋はまた、一燈園の戀愛問題として、各地の新聞に書かれ、世評にのぼり、またしても、みなさま初め世間の方々に、いろ〳〵御迷惑やら、御心配やらを、おかけ申してゐることゝ、まことに、申し譯なく存じます。

二人の間に戀愛關係のあつたことは、事實です。そうして、一方は天香さんへ、一方は國のお父さんへまで、結婚のことを申出でられたことも事實ですそうして、理由は違ふが、天香さんからも、彼女のお父さんからも、二人の結婚は許されず、拒否されたことも事實です。

お父さんの反對された理由は、大阪朝日新聞の記者に答へられた言葉にもある通り『結婚後も、托鉢生活をするといふので、それは夫婦生活に不適當だから』といふのでした。天香さんは、彼女の思想やまた、今日迄の修行振りから言つて、一燈園生活者の妻として、ふさわしくない、と、いふ處からでありました。二人の戀愛關係はかうして、先づ初めから蹉躓の多いものでありました。

よし、天香さんから、その傾向や、修行振りによつて、許されなかつたとしても、彼女が、まことに愛を成就させたく願つてゐるならば、その強い愛の力によつて、決して、天香さんをして、最早非難の餘地を入れしめぬ處まで、此の生活の修行を深めて貰ひたかつたのです。園では、彼女は私がお預りしまた、御郷里の方々からもお賴みを受けて居りましたので、幾度彼女を促し、勵まし、鞭打つたことか知れません。

此年の二月初頃であつたと憶ひます、それまでにも、彼女は、しば〳〵『もうこんな生活はいやだ』と言つては國へ歸られ、歸つたと思ふと、また出てくるなぞ、いろ〳〵のこともありましたが、あらゆる事情が、まとめ難いものであることも明瞭になつて參りましたので、彼女もよく理解した上で、彼等二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人の關係は、すつぱりと斷つたことに話が定まり、お國からも、彼女に歸つて來るやうにとの話がつて退園歸國されたのでした。

處が、今春四月下旬頃に、彼女から、改めて入園させて貰ひたいといふ手紙がありました、此方では反て來られない方が彼女のため宜しいだらうと思つて、手紙でお斷りし、猶、從來の關係から、私がお國の方へお伺ひした處が、殆んど同時刻に、彼女は京都へ向つて立つて了つたのでした。で、お國の方とも相談し、また彼女の意向もさうでありましたので、茲に一燈園生活を半年程修行して歸つてこたゞくといふことに定めて、お預りしたのです。

『懺悔の生活』によつて、世間に知られて以來、實に多くの方が入園を希望して、來て下さいました。來て下さるのも御緣であり、また、しばらくでも居ていたゞけば、何かのお役にも立たうかと思ふて、初めは入園していたゞきましたが、中には、本當に此の生活を修行し、乃至生活に立たうといふまでの決心覺悟でない方も多數あり、そのため、隨分園內の亂され、延いては他の修行者の障りになるやうのこともありましたので、既に昨年の後半期以來は、しば〳〵、一整理して、入園も一通りの方はお斷りし、眞面目に修行して下さる方だけにしやうといふ話も、より〳〵あつたのであるが、餘りに嚴格にするのも、道を狹くする等の惧もあり、その他の點なぞに關づらはつて、そのまゝに打ち過されて居りましたのです。

九月、東京地方に稀有の大震災があり、數百萬の同胞はそのために四苦八苦の苦しみを現にして居られる。詔勅にも『上下協戮振作更張の時なり』といふお言葉があり、況して一燈園生活者としては、一層の眞摯な生活をせねばならぬこと、此の際、長い間打ち捨てゝおいた園內の整理をし、緊張した步みに入ることに定めて、既に園を出ていたゞいた方も數人あるのです。役女は、何れにしても歸つていたゞく可き前からの約束もあり、またそのことも秋になつてから申してもありましたので、十一月一日、天香さんから、役女に、退園歸國して下さいと申されたのです。

役女の思想や感情が、いつからか非常に變り、一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

且斷つた問題に、また新しく執着され出して、それが、到頭この度のやうな問題を起すことになつたのです。

深刻は愛慾の惱み、我執の苦しみに陷つて居られる方でも、此の生活に入られることによつて、整理され、解決されて行く方があるのに、反つてそれ等の惱みを深くした彼女には心から同情し、また私共生活を共にし居つた者としては、まことに慚愧た堪へぬ次第です。

天香さん、保太郎さん初め、吾々一燈園同人は、一層道を進め、修行を徹せしめることによつて、光と世と人との前に懺悔し、傷いた彼女の胸がまことの光明によつて照らされ、救ひの生活に入られるやう祈念させていたゞきます。念々に罪を重ね、過ちのみを繰り返して居る私共を、光よ、どうぞ哀愍覆護して下さい。

新聞には大層誇大されて報道されて居りましたが腕の動脈の上を切つた彼女の傷は極く淺いもので、私共の簡單な手當で、二三時間程したら創口はふさがつて居りました。また、發狂云々といふ記事もありましたが、まことは強度のヒステリーの發作ださうです。專門のお醫者さんが見て下されてのお言葉ですから、私共もその點喜んで居ります。彼女のため、御心配下されて居られる方のため一寸申添へておきます。

一燈園生活に於て、戀愛、結婚等の問題は、如何に扱はれるかといふことについては、以前からも天香さんは纏めて發表される意志もあつたこと、殊にかうした問題さへ發つたことゝて、遠からず、まとまつた意見を發表されるお考へで居られますから、それ等の點については、今は措くことにします。

次に引用した談話は、彼女のお父さんと保太郎さんの二人が、記者の問ひに答へられたもので、大阪朝日新聞に載せられたものです。此の事件の參考の一端にもならうかと轉載さていたゞきます。

保太郎さんの言葉

「誠に申譯がありませぬ、出來る事なら看護もしやうと思ふて居りますが許されませんでした。何も申しませぬ。今後の一擧一動でお詫の心を示します」

お父さんの言葉

「娘は我儘者です信仰生活をしやうとした動機は要するに家庭の事情がその原因でそれは私も認めてゐましたので一燈園へ無斷で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

入つて了つた時も私は娘の自由を許してゐましたが斯ういふことにならうとは思ひませんでした。天香師に對しては敬意を表しますが一燈園については考へる點も批評すべき點もあります。併し今は頭が混亂してゐますのでお許し下さい。昨年の春娘から直接又は間接に二三回保太郎氏との結婚問題を云ふて來ましたが結婚後も托鉢生活をすると云ふのでそれは夫婦生活に不適當だからと反對しましたが娘は意志を通さうとして遂にこの破綻を生みましたのです。お察し下さい。親の私は苦しいが兎も角生きてゐて呉れたと云ふのが先づ何よりの力であります。癈者になつたのは殘念です、併し何うかして元の健康な身體として新しい生涯を切り拓かせたいと念じてゐます。」

此のやうなこと、まことは書かぬ方がよく、また書きたくないのですが、あまりに多くの方々から、手紙で、或は直接言葉で、天香さんや私共の方へ言ふて來られ、また各地方にあつて此の生活に立たれ此の道を信じて歩んでゐて下さる方々の中に、隨分新聞や世評のために、惑ひ、心配をして居られる方々もあるから、何か書くやうにと、御親切にすゝめて下さる方が多數あり、餘儀なく、このやうなものを書くことになりました。

辯解は全く無役なもの、口を開けばそれだけの障りのあるもの、此の一文が反て新しい障り、惑はしのもととなりはせぬかとも氣遣はされます。

願はくば、光の大慈悲心に護念され、皆さまのお祈り添へによつて、共に倶に菩提の道を成就させて下さい。

どうぞ光よ、私共の負ふべき十字架を負はせて下さい、業障より解脱させて下さい、そうして若しみこころにかなひますならば、一切の罪の淨めに、この身、この心、この生活を役立たせて下さいまし。

大正震災の歌（二十五首の内）

福原俊丸

國を人をひねもす夜ただおびやかす主義者てふ魔は誰か養ひし

政事正しき道の醜草は聊の利鎌にからるるものを

天津柱折れじ碎けじ神國の人の力のためさるる時

東のみやこの榮ほほゑみし我は我にしあらず淋しも

（般若十八空のこころを）

執はるる物もこころも吾もなくは業のほのほは何燒くらんか　（有爲空）

秋めける雲わく空に大地のもの燒きし焔は狂ひのほるも　（無爲空）

云ふすべも言葉もたえてただに默し畢竟空の界に入りぬ　（畢竟空）

人間の眼愚かし業の火は久にもえ繼き消え失せなくに　（無始空）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

鹿谷ヶ一燈園日記

高　頭　生

○十一月一日(水)　草葉にすだく蟲の音と、筧を落ちる水の音とが雨の様に朝につゞいて、鹿ケ谷の秋聲は將に酣となつて來た。園内の殆んど大部分の方が南禪寺の辨天講へ托鉢に行かれた、殘られたものは當番さんと二三人の御婦人のみである。

○二日(金)　長々園の典座をして居て下すつた三上さんは御郷里の福岡へ、藤井さんは神戸の鐘紡へ托鉢に行かれる。

○三日(土)　谷野さん、河村さん、石原さん渡邊さんが夕刻東京へ托鉢に立たれるので、心ばかりの茶話會をさせてもらつて、横山當番さん、蓮東さん、啓文さん御夫婦、戸田みゆきさんなどが驛までお見送り下さる。

○五日(日)　濱村さんが宣光社から持つて來て下すつた果物を、晩のお勤め後、皆が集つていただいたが、古い方達がすつかり東京へ行つてしまはれたので、ほんとに淋しい氣持がする。

○八日(木)　戸田みゆきさんのお工合ひが急に惡くなつたので、夕刻熊野神社前の恒村先生に御來診をお願ひにする。珍しく勝淳さんと保光さんとが御歸園になる。

○九日(金)　增淵さんが岡山から御歸園、あちらで野良の托鉢を懸命にやつて下すつたとかで、お顏色も眞つ黑になつて馬鹿にお元氣らしく見える。暫くみゆきさんの御看護をお願ひする。

○十日(土)　澁谷ふさをさんが托鉢先からみゆきさんの御病氣見舞に來て下さる。

○十一日(日)　焚木が不足して來たので、終日裏の山で薪拾ひをさせてもらふ。みゆきさんのお父樣が金澤から、わざ／＼お見舞にゐらしつて下さる。

○十二日(月)　啓文さん御夫婦が今日から園を離れて市内で御托鉢下さることになる。皆がお名殘りを惜んでお見送りする。坂道を覺束ない足取りで下りて行く、可愛らしい晴ちやんと文ちやんの後姿は、女の方達の涙を誘はせて止まなかつた。大學病院の戸出先生が、みゆきさんを御診察に來て下さる。夜更けてからどしや降りの雨を衝いてお歸りなさるお姿を拜見すると、ほんとに感謝の念が染々と湧いて來る。

○十三日(火)　數日前東京から徒歩で御歸洛の途に就かれたと伺つて居る古陵さんが、夜ひよつこと温厚なお顏を見せて下さる。長途の行脚にお草臥の御樣子もなく、何時もニコ／＼してゐらつしやるが、嬉しい氣持に先づ瞼が熱くなつて來るのを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

覺える。夜、大阪同朋園の淸水精一さんがお見えになる。

○十四日(水)　午後天香さんと保光さんとが御歸園今日も戸出先生が御診察に來て下すつていろ〳〵病人に御親切にお話し下さるので、みゆきさんのお顏色が頓に冴え〳〵として來る。ほんとにありがたいことに思ふ。來園中のお父さんが引取られて大學病院へ入院なさることになつた。保光さんと增淵さんと私とがお見送りさせてもらふ。岡山から野木さんが御歸園。

○十五日(木)　野木さんと神戸から一寸歸園なすつた藤井さんとで、園の畑に白菜、新蘭、豌豆などの種を播いて下さる。夜、野木さん外三人の男子の方と内田廣子さん、木田英子さん、加藤あきらさんが東京へ托鉢にお立ちなられたので當番さん、相さん、蓮車さん、增淵さんが驛までお見送り下さる。御歸鄕中の藤田淡如さんが夕刻御歸園。

○十六日(金)　園の種々な問題について當番さん、濱村さん、相さん、淡如さん、蓮車さん、增淵さん、野原さん、私とが朝から二階南の六疊へ集つて互ひに意見を述べ合ふ。

○十七日(土)　當番さん、蓮車さん、增淵さん、吉井いそ子さん、安藤米子さんのお手助けで、階下四疊を病室に當て、これまで御婦人部屋であつた離れを明けて二階全部を御婦人室とする。震災當時第一番に單身東上されたまゝ、暫く御消息を承らなかつたので同人一同がひどくお案じ申して居た木暮さんが、夕刻突然御歸園なすつたので、漸く安心の胸を撫で下ろす。東都の實況について色々興味の多い御話を伺ひ乍ら、夜の更くるも知らずにきき惚れる。

○十八日(日)　夜、天香さん御歸園。禪堂でお勤めをお濟ませになつた後、無我の生活その他について約一時間半のお話があつた。

○十九日(月)　天香さんからのお申附けで、午後六時から園の離れで當番さん、濱村さん、相さん、木暮さん、蓮車さん、增淵さん、野原さん、私の八人が集り園の種々な問題について、豫て十六日に協議して置いた事柄について、天香さんに腹藏のない意見を申し上げ、親しく師からも御高見を拜聽させていたゞく。

○二十日(火)　顧れば、此の月ほどゴタ〳〵忙しかつた月はなかつたやうであつたが、皆樣に種々な御苦勞をお掛けして、ほんとに濟まない氣がする。

▼本號表紙題字解　桓武天皇宸翰、大般若經十六會般若波羅密多分序。延曆十年三月二日寫とあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光の友の會

○神戸光の友會

地震！地震！關東の大震災——其の悲慘は今更ら語るまでもない、實にこれ全日本的の大慘害である。しかし飜つて思ふ、此の震災の齎らしたものは慘禍のみであらうか。否、否、決してさうではない。萬づの人は嚴かに『斯うしては居られぬ!!』と慄いた。其はやがて人の覺醒となり、日本の復活ともなり、延いて全世界的にさへ動いて行くのを見なくてはならぬ。神戸光の友會創設、此も亦、其の一つの『あらはれである。

十月十四日、天香師は神戸を訪ねて下さつた。其時はもう機が熟して居たのであらう、何といふ有難い話だ、天香師のお顏に接した丈で神戸光の友會の設立ははつきりと定められた。翌日は鐘紡兵庫工場長福原八郎氏、日本燐寸會社の直木三郎氏の名で、次のやうな通知が、神戸及其附近の「光」の讀者一燈園宣光社の外護者、同人の托鉢先等へと發せられた。

合掌、秋もをはりまして、向ひます寒さにさへ心身の緊張は自然の理でありませう。而し緊張しても緊張しても、まだものたりなさを感ぜられますのは、此の度の大慘害のあとをうけました凡ゆる階級の思想と生活の其れではありますまいか？　皆樣も定めし御同感の事と思ひます。そこに思ひ到りました時、人として國民として人類として、このまゝではならないと思ひますので、左記の如く皆樣と共に親しく生活の一轉機を創るべく御相談申上たいと存じまして、御案内申上ます。どうぞ微意をおくみとり下さいまして、御出席の程をお祈申ます。

一、懺悔奉仕の生活を自分等の家庭に、少しでも取り入れると同時に凡ての社會に普及する爲。

二、方法として第一に光の友の會を作り、時々集合して親しく座談的に、御互の精神を較張せしむる爲。

三、京都一燈園西田香師の列席を仰ぐ事。

場所　神戸西須磨太子館

時日　十一月廿一日午後六時三十分

十一月廿一日黄昏、西須磨の汀近く建てられた太子館は、天香師を始め神戸在任の同人十三名の托鉢に依て會場整理は十分に整へられ、更らに受附接待下足等の署員も定つて、來會者の參集を待つた。三々五々集り來る人々は、控室に火鉢を圍み茶を喫しながら、天香師を中心に色々の話の花が咲く。やがて定刻を過ぐる三十分、振鈴と共に會は開かれた。當番西川さんの開會の辭に次ぎ、福原八郎氏は起つて會設立の趣旨を話された。次には臼井牧之助氏壇上に登り、左記の申合案を議題として、逐次審議の上滿場一致を以て可決した。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

●神戸光の友會申合案

(名稱)本會は神戸光の友會と稱す

(目的)本會の目的は

一個人としてはお光により懺悔と下座に努め簡易にして眞劍な生活を爲す事

一國民としては華美浮薄を捨て質實精進の生活に甦り國民精神の復興に努力する事

一人類としては親疎の別なく心の底より愛し合ひ眞の平和を將來する事

以上三の目的を達する爲同志相集り、懺悔奉仕下座の精神を各自の立場に應じ、自由に窮行するのみならず、之を家族四隣に及ぼし、更に一般社會に普及徹底せしむるにあり。

(集會)本會の目的を遂行する方法として、毎月一回(第三土曜日)集合して各自胸襟を披き御互に手を引合ひ道念の糧として、深く省察して本會精神の普及を祈る事

(入會)本會は一燈園機關雜誌『光』の愛讀者並に本會の精神に共鳴さるゝ方を以て組織す、但し會員の紹介あれば、何人でも隨時入會差支なし

(會費)本會は會費一切不用の事

但し光の友會を益々發展させる事は自他の幸福なりと信じ、よい心持から會に供養さるゝものは物の多寡を問はずお預り致し、會の爲に淨く使して頂きます

(集會場)須磨太子舘

(會務)當分の間左の場所にて扱へます

西須磨稲荷五 福原邸内 妙華庵

神戸光の友會申合が終へて會の成立が宣言せられ、天香師は起たれた。天香師は先づ此の會の創設に對して深く感謝せられ、斯る會合が縱なる同人の深い祈が、皆様の力に依て横へ廣く擴つて行く第一歩で、實に目下の時局に處して最も適應したことゝ思へば、今後こも悦んで托鉢させて頂き度いと述べ、更らに一燈園のこれまで歩み來れる道よりして、未曾有の震災に對する轉禍爲福の三重願に及び、個人として如何なる事にもまごつかぬやう、生死を超へるまでの修養をなし、國民として此度の損害をたゞに取返すのみならず此の經驗をすべてに擴充して更らに大なる福田と財物を殘し、人類として絕對愛の中に生活し眞の平和を地上に產み出す大聖業に參加せねばならぬことを提唱せられた。天香師の言は謙讓なれど力强く縷々として續くこと一時間餘聽衆に多大の感激を與へた。やがて壇を降ると會員の五分間感想談となり、三宅右一氏吉田卯一郎氏藤井竹三郎氏妻文儒氏福原八郎氏其他の方々が交々起つて或は新しく生きし悦を、或は嘗て惱める懺悔につき或は全人類の主張を或は一燈園に對する質問に就き話されると天香師は之に對して一々簡單乍ら返答がある。和氣靄々しかも飽迄眞摯に時の移るも知らず、十時の時計に驚いて名殘を惜しみつゝ解散した。斯くして神戸光の友會は設立された。此夜會する者すべてにて八十名。下略(病床に托鉢しながら見如生誌す)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○『子供の家』だより　（十二頁の續き）

子供の家でお子樣達の幸福を祈りつゝ皆樣して天長節祝日をお祝ひしました。—三津木—

今晩は目出度く天長祝日お祝。—妙一—

栗を少し食べ過ぎた。—吉衛—

疑似赤痢栗や林檎がうらめしい。—無庵—

心配やら喜びやらそれでもおいしいものはやつぱりうまい。—立山—

今日齋藤さんがおたちになりました。叔母樣にでも別れた樣でさみしう御座います。—鄭—

（二）黒澤正夫兄入營送別藥石會寄書き

大正十二年十一月二十九日

黒ちやんがゐないとさびしい、おれ達は明日から黒ちやんの分まではたらかうよ。—吉衛—

ミリタリズムの骨まではシヤブラないで下さい。—まさる—

南無　NON MILITARISM　—光次—

くろちやんのためにいのる。—一義—

どうぞおたつしやでさよなら。—ヒトシ—

行く雁に別れを惜しむ信天翁。—軌外—

お大切に。—河村清太郎—

黒ちやん御クロうさま何分どうぞ頼みます—秋嶺—

あなたはいよ／＼兵隊に行んだもの、私は私を見へめねばならぬ。—のざふみな—

黒ちやんこんどはどこで會えるんだい。—かつぢ—

軍人といふ人妙な人變な人。—クロ—

身心共に丈夫になつておいでよ。—大谷—

土ほり、シヤベル、テント張り、それからなに／＼、黒ちやんうまくなつて歸るだらうな。—中西生—

ドウゾマメで合掌—ナツ非生—

御丈夫で愉快な軍隊生活をなさいます樣祈ります。團體的訓練のちつともない民衆を全部軍人にして訓練してもらひたい樣な氣がいたします、ごきげんよう。—石塚生—

おすまふのにぎやかさ。又來年南天の實のあかい頃ごきげんよう。—梶浦たね—

髪かつて　劍つけて　クロさん　いつ會いに來るの　—しげ—

たつた此間逢ひましたのにもう御別れになりました御大事に、さよなら。—杉谷靜代—

さやうなら!!!　すべての人はさう云ふて出てゆつたのだ。さやうなら。私も何時かみんなにこうあいさつして出てゆくのだらう。さやうなら、すべてが寂しいほほえみに變はる、さやうなら。—ア●カトー—

御自愛を祈ります。—磯部—

黒ちやん。いつてゐらつしやい。—寂しい—たてやま—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

震災救護に對する一燈園同人のいのり

東京一燈園當番　松下吉衛報告

托兒所	青山明治神宮外苑『子供の家』	大正十二年九月二十六日より開始 保育時間、朝七時より夕五時半まで、無休日 幼兒數百名内外、同人六名奉仕（松下、鄭、杉谷、梶浦、磯部、加藤）
人事相談 バラック事務（調査、人事會、退配給）	青山明治神宮外苑 中部バラック事務所 西南バラック事務所	大正十二年十月五日より 執務時間　朝七時より夕六時まで、休日なし 同人五名奉仕（立山、矢野、夏井、藤田、野木高坂）
バラック管理事務	麹町區上二番町バラック	大正十二年十月二十八日より 同人一名奉仕（サガ）
バラック管理事務	麹町區｛一番町バラック 牛ヶ淵公園バラック｝	大正十二年十一月二十八日より 大正十二年十一月二十五日より同人一名奉仕（島田）
震災救護調査連絡事務	内務省社會局構内 震災救護打合會	大正十二年十一月四日より 同人十五名奉仕（松下、中西、吉田、小竹、迎、河村、石塚、東條、小柳、岩崎、黒澤、小林、谷野、行本、近藤）
簡易宿泊所	淺草區淺草寺簡易宿泊所	大正十二年十二月二十五日より同人三名奉仕（綾部、松井、西川） 目下宿泊者五十九名一夜宿り二十名内外
隣保事業一般	深川區善隣舘	大正十二年十一月十日より、同人六名奉仕（八田、谷田部、石原、中山、渡邊、黒田）
	本所區本所基督教産業青年會	大正十二年十一月一日より、同人二名奉仕（鈴木、龜井、丸山）
施療所事務	市外小松川傳染病院	大正十二年十一月二十日より 藥劑士の資格ある同人一名奉仕（久保田）
兒童保護	市外池袋	大正十二年十一月二十日より、同人一名奉仕（木田）
應急救護事務	芝區、協調會	大正十二年九月上旬より下旬にかけ、同人六名奉仕せり（長谷川、夏井、田原、高野、山田、松下）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN